

第4回中川村総合戦略検討委員会
議事録

1. 開催日時等

平成27年10月9日(金) 19:00~20:30

中川村役場 基幹集落センター集会室

2. 出席者(委員)

委員長	元信州大学教授		
	宮城大学名誉教授	岡村	勝司
副委員長	J A上伊那	宮崎	美和子
委員	中川村商工会	桃沢	傳(欠席)
委員	中川村建設業協会	宮下	進吾
委員	中川村農業経営者会議	米山	勝博
委員	中川村教育委員会	松村	隆(欠席)
委員	アルプス中央信用金庫	吉澤	孝
委員	八十二銀行	小林	修
委員	田島建設株式会社	古田	亘(欠席)
委員	中川村商工会女性部	山崎	美代子(欠席)
委員	中川村商工会青年部	知久	史朗
委員	結婚相談員	桃澤	貴美(欠席)
委員	片桐保育園保護者会	大場	孝幸
委員	みなかた保育園保護者会	倉澤	登
委員	西小学校PTA	松村	道子
委員	東小学校PTA	富永	志保(欠席)
委員	中川中学校PTA	北島	由利江
委員		宮崎	政彦(欠席)
委員		大竹	秀子
委員		諸田	茂(欠席)
委員		山内	新一
オブザーバー	上伊那地方事務所		(欠席)

(敬称略)

村長 曾我 逸郎

事務局

総務課長 福島 喜弘

総務課企画広報係長 松村 恵介

総務課企画広報係 小林 和弥

株式会社 環境計画 松澤 等

株式会社 環境計画 寺澤 佐奈枝

3. 配付資料

1)次第

2)第3回検討委員会後の修正箇所等について

3)まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略に対する意見書（案）

4)中川村人口ビジョン（案）

5)まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略（案）

6)人口減少、高齢化、地域活性化 対策事例（岡村委員長提供資料）

4. 議事

1)開会（19:00）

2)開会あいさつ

3)委員長あいさつ

4)協議事項

(1)経過報告について

事務局より、次第に示した庁内での検討経過及び地方創生講演会について報告を行った。

(2)中川村人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略について

事務局より、中川村人口ビジョンの35ページ以降、まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略の追記箇所等について説明を行った。

その結果、以下のような意見等が出された。

委員：中川村は、ふるさと納税制度について取り組みを行っているのか説明を願いたい。

事務局：中川村でもふるさと納税制度については取り組んでいる。全国でふるさと納税を行っている自治体があるが、見返りが有るか、無いかで差が付いてくる。自治体によっては1万円の納税で5000円のお返しがあるなどである。国では、行き過ぎであるとの指摘もある。本来は、応援したい市町村に納める趣旨があった。見返りが大きくなりすぎることを、国も危惧している。一般の住民や議会でもそのような声が大きく、今後継続でどのような制度とするか検討している。

委員：今現在の見返りはどのようなものとなっているか。

事務局：1年間、村の広報誌を送付することと、美し村の本、どんちゃん祭りの招待状・優待券などを送っている。

曾我村長：はじめから見返りがあることを広報するのではなく、ふるさと納税してくれた方に送っているのが現状である。一部自治体では、自治体内の特産物を送るとしてふるさと納税を集めた結果、お返しの品が不足し、外部から買って送っているところもあるようである。商品の不足は、クオリティの問題も生じてくることが危惧される。その結果、クレームにつながるものが危惧され、中川村のリンゴ

は良くないといった風評に繋がってしまうことも心配である。一時のブームに飛びつくことは危険である。良い商品を供給することによって理解を深めていきたいと考えている。宿泊券や、商工会の商品など、射幸心をあおるような取り組みは行いたくないと考える。

会長：原点に戻ると、自治体を応援したいという気持ちに対して、お礼をするという形式が、だんだんと崩れて違う形となってしまっている。活性化に繋げるということは、原点に立ち返り、ファンクラブが形成できるような取り組みが望ましいと考える。そこから、交流へと発展していくことが望ましいと考える。物にこだわることは、あまり望ましいと言えない。

岡村会長：事務局が示した、中川村人口ビジョン、まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略について、承認頂くということで良いか。

一同：了承。

(3)総合戦略の実行にあたっての意見について

事務局より、まち・ひと・しごと創生総合戦略に対する意見書（案）について説明を行った。

その結果、以下のような意見等が出された。

岡村会長：この総合戦略については、取り組みについて役場が主体的に取り組むというスタンスなので、そのような構成となっている。本来、このような取り組みの内容を具体化する際には、村民と一体的になって取り組むことが望ましい。次の段階では、地方自治体の職員が「黒子」になって事業を進めることが重要である。今回の戦略には、そこまで示されていない。今後、ビジョンや戦略を受けて、村の中でどのように取り組んでいくのか、本来であれば村民の中で様々なディスカッションがなされていくと、具体化すると考える。その場合には、予算的な措置や、実現に向けてのチームワークも課題となってくる。予算については補助金で行うことばかりではなく、村内の共同体で行うことも重要である。「村民の労力をつぎ込んで村を良くしていく」という機運がどの程度高まっていくのかということも重要であり、正否を分けることとなる。長野県でも美しい村が多くあるが、そのような自治体には、村落共同体が機能しており、環境整備、水路整備などに取り組んでいる。中川村でどのような取り組みとなっていくのか、楽しみである。

曾我村長：移住してきた方からのメールで、法外な地区費を要求されたとか、共同作業への参加を強要されたという内容があった。都会からの移住者には、理解いただけない部分があるようである。村のホームページの村長への手紙として公開しているので、ご覧いただきたい。人口が増えている南箕輪などでも、地区に入らない方が問題となっている。単に人口が増えるだけでは良くない。これらの問題も解決していく必要があると考える。

岡村会長：本日、配付した資料の「人口減少、高齢化、地域活性化 対策事例」は、中川村

と共通するような少子高齢化に悩む自治体の事例を参考として挙げてきている。今、村長が指摘されたようなことも示されている。野沢温泉村の野沢組という村落共同体が、過去からずっと繋がってきていることなども特徴がある。具体的には、そこで生活している宿のご主人が、直接フランスと交流して、そこへ、息子や娘を送り出し、後継者を育成するための取り組みとするなどがある。水路の維持管理などにも、自助努力として取り組んでいるようである。隣の木曾谷の中にも同様の取り組みがある。水路の維持・管理などには、そこに住んでいる人の知恵が活かされている。新しく都会から入ってくる人たちと、いかに融合していくのかについては、それぞれの自治体や地方で対応が異なると考える。そのため、入ってこられる方への対応も、昔ながらの対応ばかりではなく、新たな対応の方法も模索していくことが必要であると考え。特に、その地方に住んでいる方の話し合いで決められていくことが重要である。

事務局：意見書の内容について、会長の意見として、4番目に「戦略の実行にあたっては、総合戦略及び人口ビジョンについて村民の理解を得て、村民が主体的に活躍できるよう支援体制の整備に努められたい」という文言を加えたいと考える。

岡村会長：事務局案について、意見はあるか。

一同：特になし

10分休憩

事務局：意見書の4として「戦略の実行にあたっては、総合戦略及び人口ビジョンを村民に理解いただいた上で、村民が主体的に活躍できるよう、支援の充実を図られたい」を追加することとしたい。

岡村会長：事務局案に意見はあるか。

一同：特になし。

(4)総合戦略の意見書の提出

曾我村長へ、岡村会長より「まち・ひと・しごと創生中川村総合戦略に対する意見書」の提出を行った。

5. 村長あいさつ

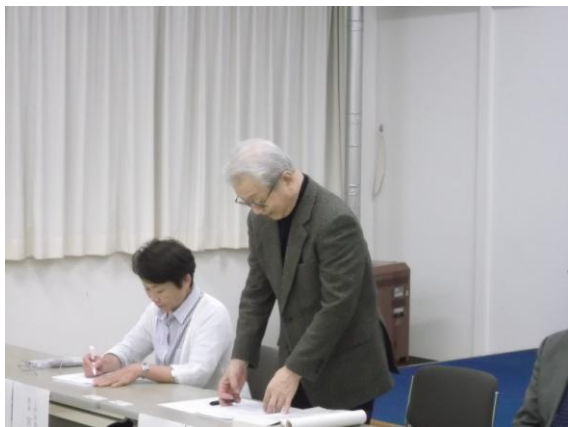
委員に対して、曾我村長より謝辞を述べた。

6. その他

事務局より、今後の予定等について説明を行った。

7. 閉会 (20:30)

以上



委員長あいさつ



委員会の様子 1



委員会の様子 2



委員会の様子 3



委員会の様子 4



意見書提出



村長あいさつ



閉会あいさつ